

# 太夫人形

■ 出土地：首里城跡 御内原北地区

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し<sup>いっし</sup>の出土品を、月替わりでご紹介。

3月は桃の節句<sup>せっく</sup>、これにちなんだ出土遺物を紹介します。

この土製品は、首里城跡御内原北地区<sup>うーちばる</sup>から出土した花魁<sup>おいらん</sup>（太夫<sup>た</sup>）をモチーフにした人形です。粘土を詰めた型を合わせて作られており、側面中央部に接合部<sup>せつごうぶ</sup>のバリを削った痕が残っています。また、下部には穿孔<sup>せんこう</sup>がみられ、成型時の支え<sup>せいけい</sup>として棒を挿した痕と考えられます。太夫人形は、本土では袴雛<sup>かみしもびな</sup>などととともに18世紀ごろからみられるようになります。美人の代名詞である花魁の中でも最高位である太夫の人形に、女の子の健康と美しく成長してほしいという願いを込めた、桃の節句<sup>せっく</sup>に関連する人形と考えられます。

その他にも当地区からは、唐人<sup>とうじん</sup>をモチーフにした人形や、釜蓋<sup>ちやがま</sup>のミニチュアがみつかっています。沖縄における人形は唐人をモチーフにしたものが多く、当地区出土資料もその例に漏れませんが、太夫像は例外として注目されます。なぜ、この地区から出土したのか経緯は判然としません。しかし、御内原が国王とその家族や女官<sup>にょかん</sup>たちが生活した場所であったことからすると、琉球でも人形を用いた節句行事が行われていたかもしれません。